

=====

本メールマガジン[NEE Mail Magazine]は、経済教育ネットワークより会員の皆様にお送りしております。

=====

◆◇-----

◆ NEE Mail Magazine 118号 ◆

-----◆◇

2018-11-2◆◇

11月、霜月です。

今月は、その名のように一年で一番体感温度が低く感じられる季節かもしれません。とはいえ、クールな季節は知的活動には好条件の季節と言えるでしょう。中高の三年生は受験モードに入ります。指定校推薦なども本格化します。大学は学園祭の季節。大学生の知的レベルが学祭で如実に出てくるぞ、などというのはもう時代遅れかもしれません。今はダンスなどのパフォーマンス系が主流のようです。

そんな今月もネットワークの活動を報告するとともに、授業に役立つ情報を提供いたします。

【1】最新活動報告

18年9月～10月の活動やニュースを報告します。

【2】イベントカレンダー・情報紹介

部会の案内、関連団体の活動、ネットワークに関連する情報などを紹介します。

【3】授業のヒント「地名に注目を」

【1】最新活動報告

■大阪部会(No.60)を開催しました。(一部既報)

日時:2018年9月22日(土) 18時00分～20時20分

場所:同志社大学 大阪サテライト

内容の概略:参加者17名

(1)最初に、篠原総一代表(京都学園大学)から、経済教育ネットワークの最近の動向が報告されました。

(2)奥田修一郎先生(大阪教育大学非常勤講師等)からは、二つの報告がありました。一つは家庭科との連携の提案、もう一つは「経済分野のカリキュラム素案」です。

(3)李洪俊先生(大和川中学校)からは、全国公立高校入試問題(2018年)の分析結果が報告され、代表的な入試問題が紹介されました。

(4)山本雅康先生(奈良学園中学高校)からは、財務省近畿財務局の協力をえて「財政教育プログラム」を実施したことが報告されました。

(5)大塚雅之先生(三国丘高校)からは、「新科目「公共」における「起業」に関する

単元開発」が発表されました。

(6)中山義基先生(京都府立園部高等学校・附属中学校)から、今後予定している実践計画が紹介されました。

内容の詳細は以下をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/osaka/Osaka60reportR.pdf>

■経済教育ワークショップ【北見】を行いました。

日時:2018年10月9日(火) 10時30分~16時40分

場所:北海道北見北斗高等学校

内容の概略:参加者37名

(1)加藤一誠先生(慶應義塾大学)の講演「交通の経済学」が行われました。航空運賃の特徴からはじまり、供給サイドから見た交通の特色、独占や寡占の教え方、北海道の交通問題など、交通を軸に経済の見方・考え方を展開しました。

(2)新井(上智大学非常勤講師)による「アベノミクスの金融政策を体験しよう」の授業が行われました。

最初に貨幣の供給量を違えたオークションを行い、そこから貨幣数量説を導き出し、アベノミクスの金融政策の構造、その結果をデータをもとに検証するという構成のモデル授業でした。

(3)研究協議では、JRの廃線問題、地域の経済問題を踏まえた経済教育の在り方、AIと進路指導など活発な質疑がありました。

内容の詳細は以下をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/activity/ws/20181009WS%20Kitami.pdf>

■東京部会(No.103)を開催しました。

日時:2018年10月25日(木) 19時00分~21時20分

場所:慶應義塾大学三田キャンパス研究棟446会議室

内容の概略:参加者14名

1 報告事項

(1)最初に、9月部会で検討した岸先生(ICU高校)の授業提案「軽減税率を考える」に関する篠原代表からのコメントがありました。

(2)「冬の経済教室」in 沖縄、「冬の経済教室」in 札幌、「春の経済教室」in 東京の概略がそれぞれ報告され、了承されました。

(3)北見でのWSの報告が行われました。

(4)東京証券取引所が開発中の教材の途中経過が報告されました。

2 実践報告と検討

(1)大阪の大塚雅之先生の授業案が紹介されました。

・大阪部会で提案された大塚先生の授業案「交換と分業、起業と金融」の融合授業の改定版をもとに東京部会有志の研究会での検討内容が紹介されました。

(2)杉浦光紀先生の「モラル・エコノミーと行動経済学」の報告と検討が行わ

れました。

・9月の東京部会で提案された授業案「経済人とモラルー子どもお手伝いから政策立案まで」の改定版です。行動経済学の知見の組み込ませ方、資料として提示したまんがの適否、スミスの原典の読ませ方などが議論となりました。

最後に篠原代表の行動経済学に関するコメントがありました。

内容の詳細は以下をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/tokyo/tokyo103report.pdf>

【 2 】イベントカレンダー

<イベント予定です。(開催順)>

■「先生のための経済教室(沖縄)」を開催します。

日時:2019年1月5日(土)

場所:沖縄県立博物館・美術館の美術館・講座室

申し込み方法は以下をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/announcement/index.html>

■「冬の経済教室 in 札幌」を開催します。

日時:2019年1月26日(土)

場所:キャリアバンク職業訓練校教室

申し込み方法は以下をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/announcement/index.html>

■「春の経済教室 in 東京」を開催します。

日時:2019年3月16日(土)13時00分～17時00分

場所:慶應義塾大学南館4階445教室

テーマ:「行動経済学の知見を授業で活かす」

内容、参加方法が決まり次第HPに掲載いたします。

<定例部会のお知らせです。(開催順)>

■東京部会(No.105)を開催します。

日時:2018年11月22日(木)19時00分～21時00分

場所:慶應義塾大学三田キャンパス研究棟446会議室

■大阪部会(No.61)を開催します

日時:2018年12月1日(土)18時00分～20時00分

同志社大学 大阪サテライト(予定)

■札幌部会(No.20)は冬の経済教室を兼ねて開催します
日時:2019年1月26日(土) 13時00分~17時00分
場所:キャリアバンク 職業訓練校教室

【 3 】授業のヒント

■地名に注目を

(1)北海道に栃木があった

今回は、経済というよりもうすこし広い話題を取り上げます。

先日、北海道北見のWSに参加しました。その前に、北見北斗高校の山崎先生の案内で周辺のFW(フィールドワーク)を行いました。

網走刑務所の正門、サロマ湖、佐呂間町の体育館(カーリング場がありますが、休館でした)などを回って、そこから内陸に入ります。

そこに栃木がありました。栃木神社もありました。山崎先生から質問が出されます。「なぜここが栃木?」「どんな人たちが開拓した?」

栃木県の人たちが開拓した地であることは分かりましたが、そこに移り住んだ人たちがどこからかは答えられませんでした。

答えは、旧谷中村の人たちでした。

1907年(明治40年)に鉢毒と洪水に悩む渡良瀬川と利根川の合流点に近い谷中村を廃村にして遊水池を作り、住民を集団移住させたと歴史の教科書には載っています。その時に、住民とともに谷中村に残って抗議したのが田中正造です。では移住した人たちがどこにいったのか。その一つがこの栃木地区だったのです。

1911年(明治44年)にこの地に入植した谷中村出身の人たちの苦闘の歴史は佐呂間町の町史に記されています。同町のHPでもその苦闘のようすは読むことができます。

田中正造までは有名ですが、その後の人々までは注目されることはほとんどありません。現地に行って見て、はじめて、当時の人たちの思いの一端を感じる事ができました。

(2)地名がもつ地理的背景・歴史的背景

民俗学者の柳田國男は、1936年(昭和11年)に『地名の研究』を刊行して、日本の地名研究の先鞭をつけています。柳田が問題にしたのは、地名がつけられた由来で、この本は、地名がもつ歴史性、地理的な意味を探ることで、地域や住民の生活を明らかにしようというねらいの本です。

柳田はこの本のなかで、地名を生活の必要から命名する「利用地名」、ここは自分の土地だと宣言するための「占有地名」、地名を分割して名付ける「分割地名」にわけています。

このうち「利用地名」が一番古い地名で、土地の自然条件が分かり、防災教育に活用できます。「占有地名」は開発にともなって所有を明確にするために名付けられたもので歴史的な背景が分かるとされています。「分割地名」は「占有地名」をさらに細かく大小、上下、東西南北、原と新など、地域を細かく区別するために付けられたものという位置づけをしています。

この分け方からすると、栃木地区は、新という名称はありませんが移住によって名付けられた「分割地名」と言って良いでしょう。

北海道にはアイヌ語をあてはめた「利用地名」も多いのですが、この種の「分割地名」も結構あります。

最近の話題では、日本ハム球団が新球場を作ろうとする北広島市、JR 北海道の廃線計画（札沼線）で登場する新十津川町などがすぐにわかる事例です。

日本全体を見ても、和歌山県的那智勝浦や白浜と千葉県勝浦や白浜のように同じ地名の例があります。これも移住による「分割地名」です。

もっと有名な移動による「分割地名」では、アメリカのニューヨークなど、ニューが付く場所はみんな広い意味で「分割地名」と言って良いでしょう。

ちなみに筆者の住む東京西郊の地名にも「分割地名」は多く、新田開発で親村から分かれて子村名として付けられた地名や、武蔵野市の吉祥寺のように江戸時代の火事で焼け出された駒込の吉祥寺付近の住民の移住で付けられた地名があります。

全国で同じ地名を探して、そのルーツをたどることで歴史が分かることも多いはずです。

(3) 国際的人口移動と地名

ここからは少し経済との関係に触れます。

現在、日本でも外国人労働者の受け入れ拡大を目指す出入国管理法が審議されること

になっています。難民問題は報道こそ少なくなっていますが深刻な問題です。

これからも世界的レベルでの人口移動や国際的労働移動はやむことはないでしょう。

国際的人口移動が行われても、ここは俺の土地だと宣言するような「占有地名」が現れることはないでしょうが、移動による「分割地名」が登場することはあるかもしれせん。

そんな大きな社会変動も見据えながら、足下の地名に気を配る。その地の歴史や地理的な背景に関心をもつことで、政治や経済の学習も立体的に浮かび上がることになるといいですね。 (新井)

【 4 】編集後記(みみずのたはこと)

地名では、かつて勤務をしていた国立(くにたち)の町が国分寺と立川の間にあったので国立と名付けられたと知って、結構いい加減だなと思ったことがあります。ネットワークメンバーの杉田先生の学校のある千葉県津田沼も明治に谷津村、久々田村、鷺沼村の三つを合わせて作られた地名だそうです。こんな因数分解ができる地名も全国にはたくさんありそうです。地名は面白い。(新井)

=====
登録に心当たりのない方、今後配信を希望されない方は下記会員ページよりお手続き下さい。

<http://www.econ-edu.net/aboutus/contact.html>



編集・発行 : 経済教育ネットワーク

----- (C) Network for Economic Education ◆◇